

人、1日最大給水量8万500^mとし、水源を錦多峰川と定めた第2次拡張事業に着手しました。

この事業は、これまで高丘浄水場によって市内全域に供給していたものを、西部地区を賄うべく新たな浄水場構築を目的としたもので、将来における他の河川からの取水も考慮し、「急速ろ過方式」を採用しました。

日量3万600^mの能力として計画した錦多峰浄水場は、昭和52年にその2分の1を整備し供給を開始し、その後の平成9年にはすべての設備が完成しました。

こうして東西ふたつの浄水場の稼働に伴い、西から随時整備された延長13・5km（口径600mm）の配水幹線も昭和56年には高丘系の配水本管と接続され、両浄水場の「相互融通体制」が確立しました。

非常用水源の確保

昭和57年、58年には、活火山である樽前山の火山活動による表流水取水不能の事態に対応できるよう、非常用水源として高丘系に2箇所地下水取水施設を築造しました。

高丘地下水取水場は、日量800^mの取水能力を持ち、表流水場水施設である幌内ポンプ場に併設した地下水取水施設

設の日量400^mと合わせ、日量1万200^mの非常用水源を確保しています。

おいしい水の源

苫小牧市は、北に活火山「樽前山」の山麓が広がり、南は太平洋に面し東西に長い市街地が形成されています。

現在の市街地は昭和の半ばまで大半が湿地帯であり、東にはラムサール条約登録湿地となっている「ウトナイ湖」など、西の山麓には錦大沼をはじめとする河川と湖沼群が点在する水の多い街です。

行政区域面積は56^{km}ですが、約半分が森林で、樽前山麓の広大かつ豊かな樹海が広がっており、森林のうち6割が国有林、1割が北海道大学研究林、他は市有林と民有林で、私たち市民に貴重な自然と水を楽しんでいただけていま



樽前山

す。

苫小牧市の水道は、こうした山麓で育まれた河川表流水を原水としており、創設時には「幌内川」、その後「勇払川」「錦多峰川」が加わり、現在では3河川から取水しています。

この3河川は、いずれも安定した水量を保つとともに、年間を通して濁度は平均1度以下であり、市の河川環境調査においても常にトップクラスとなっています。



七条大滝

また、当時の環境庁による全国河川水質調査においても、幌内川や錦多峰川を含む市内の河川は、全国的にも1位、2位のランクに入るなど、水質のすばらしさを誇っています。

これらの河川の源流は、樽前山麓の中腹に源を持ち、本流や支流、さらに附近から湧水する流れが集合して清流を成しています。

湧水は、山麓に降った雨や雪解けの水が、樽前山の過去の幾度かの噴火によって堆積した6m以上もの火山礫層

に深く浸透し、自然ろ過されながら長い年月を経て地下を移動し、随所から湧き出ているものです。

圧密された多孔質の火山礫層と、ここに根を下ろした樹木や草類が適度な木漏れ日を持つ環境を作り出していることから、この山麓一帯は十分な「保水能力」と「ろ過機能」を併せ持っています。

ここで育まれた水は冷たく、おいしい条件の一つである「ミネラル分（カルシウム、マグネシウム）」を適度を含みながら生まれています。

こうした安定した水量と水質の良さを誇る水源河川は、これらの森林が「水源かん養保安林」として位置づけられ保全されていることから、創設時から今もさほど変らぬ状況を保っています。

昭和60年、厚生省の「おいしい水研究会」（専門家、知識人、女優など10名）は、全国10万人以上の198都市の中から水道水のおいしい都市として32都市を選んでいきます。北海道では苫小牧市と帯広市の2都市がそのお墨付きをいただき、内外ともに良質でおいしさの認められた苫小牧市の水道水は、まさに自然の恩恵によるもので、未来永劫にわたって残していかなければなりません。